

集団づくり部会

I. 研究の概要

1. 「集団の中で子どもたちの主体性を育むために、どのような工夫が考えられるか。」

～リーダーとフォロワーの育成～

2. 研究内容

【研究内容1】

児童会・生徒会・小中連携
(小・中)

- ① 日常の児童・生徒会活動
- ② 集会活動の企画
- ③ 小中連携事業

【研究内容2】

学級学年経営 (小)

- ① 日常活動 (班・当番・係・音楽等)
- ② 行事に向けての学級としての取組
- ③ 集団における個人の育成
- ④ エンカウンター
- ⑤ 学年・学級での自治的活動

【研究内容3】

学級学年経営 (中)

- ① 日常活動 (班・当番・係等)
- ② 行事に向けての学級としての取組
- ③ 集団における個人の育成
- ④ エンカウンター
- ⑤ 学年・学級での自治的活動

【研究内容4】

表現・遊び・ものづくり
(小・中)

- ① 行事や集会におけるレクリエーション
- ② 劇・音楽・踊り等の表現活動
- ③ 集団遊び

3. 研究方法

(1) 交流計画

研究内容についての実践例・失敗談等を交流し、「集団の中で子どもたちの主体性を育むために、どのような工夫が考えられるか」についての研修を深める。

(2) 分科会構成

午後半日日程

北ブロック会場 (石狩市立花川南小学校)

南ブロック会場 (恵庭市立恵明中学校)

分科会

第1分科会 児童会・生徒会・小中連携 (小・中)

＜研究キーワード＞ 日常の児童・生徒会活動、集会活動の企画、小中連携事業

第2分科会 学級学年経営 (小)

＜研究キーワード＞ 日常活動、行事における学級としての取組、集団における個人の育成、エンカウンター、学年・学級での自治的活動

第3分科会 学級学年経営 (中)

＜研究キーワード＞ 日常活動、行事における学級としての取組、集団における個人の育成、エンカウンター、学年・学級での自治的活動

第4分科会 表現・遊び・ものづくり (小・中)

＜研究キーワード＞ 行事や集会におけるレクリエーション、劇・音楽・踊り等の表現活動、集団遊び、「子どもが主体的にできる遊び」

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 第1回部会役員研修会 令和7年度の部会研究の進め方
- 5月20日 第2回部会役員研修会 研究計画の概要の確認
- 7月 3日 第1回課題部会事務局長研修会
- 7月24日 第3回部会役員研修会 今年度の研究課題の交流方法について
- 7月28日 臨時部会役員研修会 課題部会研究協議会放送機器研修
- 9月 2日 石教研課題部会研究協議会
- 9月11日 第4回部会役員研修会 研究協議会の反省・総括
- 10月 7日 第2回課題部会事務局長研修会
- 11月25日 課題部会研究員研修会
- 12月18日 第5回部会役員研修会 次年度研究計画について

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・役員の業務を細分化し、持続可能な部会運営を目指して取り組むことができた。
- ・Google Meet を活用し、講師1名・南北2会場の講演会運営に取り組んだ。
- ・各会員のレポートをGoogle ドライブで共有し、活用しやすく整えた。
- ・今年度の部会運営や研究成果を踏まえ、来年度以降の分科会運営の在り方について検討した。

2. 課題部会研究協議会での交流・協議

【第1分科会】 ～児童会・生徒会・ 小中連携（小・中）～	① 小集団でのレポート・実践交流 全体で「主体性・主体的」をキーワードにレポート交流を行った。各校のレポートをもとに、活発な話し合いを行っていた。その後、全体で質疑応答を行い、理解を深めた。 ○花川南小 中島 和恵教諭 ・児童会の主体的な活動を引き出すには準備が重要になる。「子どもたちが実践したい!」といえるような活動を目指している。 ・児童会活動を通して、高学年が育つ素地を作っている。 ○江別中央中 山本 貴大教諭 ・全校生徒にアンケートを実施し、生徒会役員で要望を吸い上げている。その要望をもとに生徒会活動を行うことで、主体性を高めている。 ○花川南中 庄司 大志教諭 ・あいさつ活動に生徒会役員以外の生徒も参加してもらうことで、フォロワーの意識を高めている。 ・目安箱を設置し、生徒の意見、要望を取り入れた活動を行うことで主体的な活動につなげている。 ○とうべつ学園 中村 優衣教諭 ・1～9年生が参加できる活動を行っている。運動会の全校競技の運営を本部生徒が行ったり、朝の時間に全校児童生徒で吹き抜けに集まり、校歌を歌ったりしている。
---	---

【第2分科会】
～学級学年経営（小）～

- 東部中 堀 昇平教諭・福島 みさと教諭
 - ・東部中校区の小中学校の児童会・生徒会役員が集まり、東部中学校区の一貫した「東部7ルール」に基づき、小中が共通して行う取組を考えた。
 - ・共通の取組を考えるにあたり、7ルールに基づいて各校の課題を振り返ることで、主体的な活動につながった。
- 広葉中 清水 健汰教諭
 - ・生徒会役員が、各委員会がもつ課題を改善する企画を考え実施する、生徒会活動強調週間という取組を行った。
 - ・役員が現状分析し課題解決法を考えることで自己指導能力が高まり、リーダーの育成につながった。また、企画を通じて生徒が自ら課題解決に向けて行動するようになったことで、フォロワーの自律的な成長につながった。
- 若草小 長南 義史教諭
 - ・いじめについて考える集会を行い、読み聞かせをし、言葉の使い方について考えた。
 - ・準備段階で児童が考えた企画が、意図せず誤解や不適切な反応を招く恐れがあるとして考え直しになった。児童の主体的に進める活動であっても、教員が土台をつくり、適切に方向付ける必要がある。
- ② 成果と課題

多くの学校で、主体的な児童・生徒会活動を目指した取組が行われている。児童生徒の意見を広く取り入れ、より多くの児童が積極的に参加できるような工夫がされている。一方で、児童生徒の主体的な活動を支えるためには、入念な準備を必要とされるため、負担感の軽減はこの先の課題として挙げられていた。
- ① 小集団でのレポート・実践交流

4～5人に分かれ、グループ内でのレポート交流を行った。どのグループでも活発な交流が行われており、学級や学年で取り組んでいる実践のほかに、学校全体での取組内容等、幅広い交流が行われた。
- 大麻泉小 吉田 卓矢教諭
 - ・児童の自主性を尊重し、一人一人の意見を取り入れられるように、教師側も歩み寄ることを意識している。
 - ・全員遊びには、基本全員が参加できるような声かけを行う。係が中心となって企画、運営し、振り返りまで行う。
- 上江別小 篠崎 護教諭
 - ・主体性を育む取組を行い、必ず児童の活動を価値づけることを意識している。
 - ・号令等の学級のシステムを緻密に構築し、班ごとに日々のルールを振り返っている。その際には、上級生の姿から自分たちの生活を振り返るようにしている。
- 東野幌小 折内 真由美教諭
 - ・返事の重要性を、教師側から積極的に発信していく。納得いくまで発信し続けることで定着化を図る。
 - ・係活動は少人数で構成し、一人一人の役割意識をもたせるようにしている。
- みどり台小 天童 美耶子教諭
 - ・児童への連絡を class room で一括して行うことで、児童同士による委員会活動や当番活動等についての主体的な声掛けが生まれ、フォロワーに

【第3分科会】
～学級学年経営（中）～

よる率先した協力につながった。

- ・当番活動以外で、2週間程度の短期間で実施する係活動を進めた。企画立案を通して児童同士の関わりを増やすことができ、また、短期間であるため、リーダーに挑戦しやすかった。

○北陽小 茂木 勇人教諭

- ・児童の実態を踏まえ、発言力のある子から優先的に信頼関係を築き、係活動等を通してリーダーとフォロワー双方が活躍できる学級づくりを進めた。
- ・児童が自発的に意見を出し合い、協力して活動する姿が見られた一方で、活動のマナー化や一部児童の意欲低下が課題となり、継続的な支援の工夫が必要となった。

○大曲小 山下 智美教諭

- ・日替わりで全員が順にリーダーを務め、役割を交代しながら協力の在り方を学ぶ活動と、強い言い方にならないよう伝え方を変える指導を行った。
- ・互いの立場を理解し、穏やかに意見を伝え合う力が育ちつつある一方、低学年では感情の整理や言葉の言い換えが難しく、教員の支援や継続的な練習が必要である。

② 成果と課題

児童同士の関係づくりのための工夫や取組について議論がなされた。リーダーとフォロワーが相互に活躍するシステムづくりや、教師側の求める学級像へのアプローチの仕方等について、様々な方法が交流された。

① 小集団でのレポート・実践交流

4～5人のグループに分け、レポートの内容や日常の学級学年経営の悩み等について話し合いを行った。学級組織をどう作るのか、各校で多様な取組が行われており、学びにつながった。日常の活動や学校全体での取組、保護者との連携等、活発な交流が行われた。

○中央中 國塚 智絵教諭

- ・リーダーの意識を育くむため、所信表明を行い、生徒が自分自身の役割について理解し、責任感をもたせることができる。
- ・学級だけでなく、学年で統一する事項を明確にすることで、足並みがそろい、生徒と教師の間で共通理解を図ることができる。

○とうべつ学園 森 純一教諭

- ・リーダーとフォロワーの育成については、システム化することのメリット、デメリットがある。生徒に積極的に声をかけ、子どもの成長のチャンスをつかうことが大切である。
- ・席替えを有効的に使うことで、学級の人間関係を客観視する良い機会となる。

○恵庭中 浅見 真也教諭・綱木 智沙都教諭・山口 航輝教諭

- ・家庭学習習慣を学級全体で育て、仲間からの承認と交流を通じて学びを支えることを目的に、家庭学習ノートを班単位で交換しコメントし合う「家庭学習交換ノートプロジェクト」を実施した。
- ・班活動でリーダーとフォロワーの役割が明確になり、生徒の主体的関与や互いの支援が促進され、認められる意識が行動意欲を高めた。

○東部中 櫻庭 洋希教諭

- ・学級の心理的安全性を高めるため、ジェスチャーゲームやワークシート、ペアトーク等構成的グループエンカウンターを日常的に実施した。

【第4分科会】
～表現・遊び・ものづくり
(小・中)～

・活動により生徒同士の交流や互いのよさの認識が深まり学級親和性が向上したが、効果は即効性がなく日常の継続が課題である。

○恵明中 宮内 徹也教諭

- ・3年生が主体的に学級活動できるよう、教員は過度に干渉せず見守り、判断や役割分担の機会を増やし、失敗を恐れず挑戦できる環境づくりを実践した。
- ・生徒の自己判断や発言の安心感が向上し主体性が育まれつつあるが、成果はまだ十分でなく、教員の忍耐や日常的な見守りの継続が課題である。

② 成果と課題

中学校では、リーダーの育成に関わる成果や悩みが多くみられた。教師側の意図をどこまで介入させるべきか、生徒にどこまでの権限を与えるべきか等、様々な学校の実態とともに議論ができた。学級だけでなく、学年全体でルールや決まりを共有し、個々の生徒が責任感をもつことが集団作りにつながることを再確認した。

① 小集団でのレポート・実践交流

小グループごとに持ち寄ったレポートの発表と実践を行った。参加型ワークショップ形式で行うことにより、子どもたちが集団の中で生き生きと活動できるような取組を知ることができた。

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| ○東野幌小 | 印象交換シート |
| ○豊幌小 | 進化じゃんけん |
| ○新篠津小 | 巨大オセロ |
| ○中央小 | 夏休みビンゴ |
| ○江別第二小 | バースデーチェーン |
| ○上江別小 | 人間コピー |
| ○恵庭小 | 紙皿 UFO |
| ○西の里小 | シュワッチゲーム |
| ○みどり台小 | ペアバレーン |
| ○千歳第二小 | サインを見破れ！シークレット鬼
～探偵になって鬼を見つける～ |
| ○祝梅小 | しりとり自己紹介 |
| ○北陽小 | 牛タンゲーム |
| ○緑小 | 一人で来ましたゲーム |
| ○島松小 | 瞬間移動ゲーム |

②成果と課題

どのレポートも準備に大きな負担がなく、どの学校でもすぐに取り組めるような魅力的な内容であった。実際に遊ぶことで、楽しさや効果を実感することができ、有意義なレポート交流の時間となっていた。



Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

「児童生徒の意欲・学級の団結力を高めるコーチング」

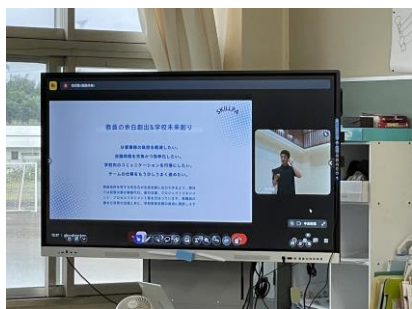
講師：高石 大道氏（合同会社 SKILLPA 代表社員）

① 講演会の様子

学習指導要領とリーダーシップ観の変化を通して、教育が統制型から対話と共創を重視する方向へ転換してきたことを示された。リーダー像も指導型からキャプテンシー型へと変化し、共感や対話を通じて協働する姿勢が重視されている現状から、教員の児童生徒に対するアプローチを参加者も一緒に考えることで、より理解を深めた。

② 成果と課題

自主性と主体性を育てるリーダーシップや組織の在り方等について、事例を交えてわかりやすく講話をしていただいた。また、すぐに活用できる子どもに対する言葉かけ等も教えていただき、終始参加者が意欲的に学んでいる姿が見られた。リモートということもあり、南・北の両会場で音声聞き取りづらい状況はたびたびあった。



Ⅳ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- 集団の中で子どもたちの主体性を育む言葉かけ、かかわりについて全体講演や分科会を通して理解を深めることができた。事例を交えた意見交流により、より自分事としてとらえながら学ぶことができた。
- リーダーの活躍の場の確保、フォロワーとしての意識を高める取組について多様な意見を交流することができた。日常の学校生活に、意図的に集団を育成する手立てをいかに組み込めるかが重要であると理解を深めた。
- 小学校、中学校の教職員がそれぞれの立場から意見を交わしたことで、様々な視点から子どもの主体性を育むアイデアを交流することができた。
- Google ドライブで共有したことで、集団遊びや ICT の活用等、各校ですぐにできる実践を共有することができた。

2. 課題

- 学級学年経営を行っていくうえで、学級担任だけでなく学年全体でルールや決まりを共有し、成長した子ども像の共通認識をもっていることが重要である。
- 児童生徒に主体的な活動を求めることに伴って、教師側の準備も必要になるため、負担感の軽減も学校現場での課題として挙げられる。
- 南北2会場に分けオンラインで全体会や講演会を行い、負担減にはつながったものの、音声の聞き取りにくさ、人数の多さによる運営面の難しさという点では課題が残る。

（文責 谷内 勇也・有田 稜）

